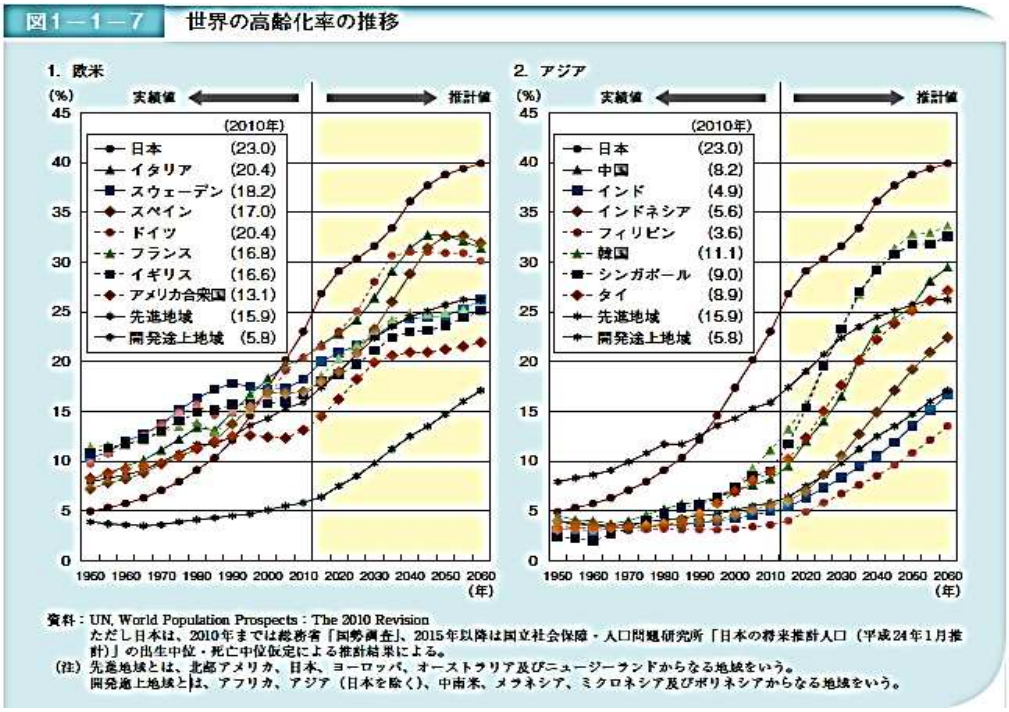
資料９

平成 25 年 10 月 24 日
福祉部高齢社会対策課

認知症有病率の日本と諸外国との比較について

厚生労働省厚生科学審議会科学技術部会の資料「認知症予防のための戦略研究」（平成 25 年 8 月 21 日）では、「認知症は世界規模の課題であり、2010 年で、世界で 3,560 万人の認知症患者が存在し、毎年 770 万人ずつ増加すると推計」とある。社会保障審議会介護保険部会資料「認知症施策の推進について」（平成 25 年 9 月 4 日）によると、日本は 2010 年度時点で、65 歳以上人口 2,874 万人の認知症有病率推定値は 15%で、認知症有病者数約 439 万人と推計されている。両資料の認知症患者数の統計から、世界の認知症患者の約 12%が日本の認知症患者となる。

認知症になる原因として、最大の危険因子と言われている加齢が考えられる。日本は世界有数の長寿国であり、（図１）のとおり 2010 年時点の高齢化率は 23.0%と、他国と比較して高い水準を示している。今後、日本の高齢化率は上昇し続けると推計されていることから、認知症有病率は更に上昇していくと予想される。

（図１）世界の高齢化率の推移（高齢社会白書 25 年度版から）